



素材市況高騰

最近、鉄を始め銅からアルミまで素材関係が高騰しています。鉄のマーケットも年明けも強いと思われる。新聞にも発表されましたが、来年1月積みの関東鉄源協同組合の入札が高値で落札されたからです。

さて、この関東鉄源協同組合とは？といいますが、10年前前になりますが、国内で鉄スクラップが売れない時期がありました。これは、メーカーの減産により、鉄スクラップの需要が激減した為に起こったものですが、鉄スクラップは発生主義ですから、メーカーの都合に関係なく出てきます。我々問屋としては、お客様に近い立場にいる為、荷止めをする事もせず、工場一杯にスクラップを積み上げていきました。しかし、これにも限界というものがああります。そこで輸出に活路を求めたのです。やがて、韓国、台湾を中心に数量が伸びていきます。この当時は、商社が中心となり船を手配し、輸出していました。当然、地元メーカーは面白くないので、商社に文句を言っていたようです。この当時、メーカーの購買担当は「あまり物に値段無し」と公言していたのですから、域外流出による需給の改善は面白くなかったようです。そこで、我々問屋は、関東鉄源協議会という団体を作り、そこで商社に入札させるといった方式をとりました。その後、関東鉄源協同組合へと発展していきました。これには、関東地区の主だった問屋が加盟しております。現在では、月間2万トン程度を入札しており、マーケットの指標の一つとして、影響力も大きくなっており、国内外の注目を集めています。日本経済新聞にも入札結果が掲載されていますので、お気付きの方もいらっしゃると思います。一方で、関東鉄源協同組合以外の輸出も盛んに行われており、多いときには、月間20万トンが輸出されております。

さて、横道に大きくそれてしまいましたが、鉄の市況ですが、今、東アジアで日本のスクラップを積極購入しているのは、韓国ぐらいで、高値の日本のスクラップから欧米にシフトしつつあります。国内では、東京製鐵が、積極購入を続けています。今のところ発生も少ない事もあり価格の上昇に繋がっている様です。しかし、東南アジアの調達先が欧米に向き始めている事を考えると、この上昇局面は長くは続かず、越年在庫が確保出来た段階で一服感が出てくる事も予想されます。

公共とは

今年話題になった本で、「国家の品格」という本があります。内容的には少々乱暴な所もありましたが、ここまで公共という概念が失われてしまったのでは、強めのやり戻しもやむをえないのかもしれませんが。電車の中で化粧をする女性、ドアの前の床に座り込む子供達、給食費を払わない親などなど挙げたら切がない程です。どれも、公共という概念が失われているからではないでしょうか。学校の荒廃についても、同じ事が言えます。我々が子供の頃は先生というものは、どこか怖い存在であったと思います。同時に、親も教師に対し、敬意を払っていました。ところが今や、小学生が教師に対して、「教育委員会に訴えるぞ」と教師を脅す有様です。これに呼応する親も親だと思つのですが。ある調査では、教師が威厳を持っている学級の方が、仲良し的な教師の学級よりも崩壊の度合いが小さいという結果が出ているそうです。至極当たり前だと思います。権利を主張する前に義務を果たすのは当たり前の事なのですが、それを棚に上げて、権利のみ主張する事がまかり通ってしまうのは、やはり公共の概念の喪失といった問題が根っこにあるのではないかと思います。昔は、「世間様に迷惑を掛けるな。」などと言われたのですが。

現在の法律の基は戦後作られたものですが、戦争において、神風特攻などという行為が、国家的に行われたことに対して、アメリカは相当に脅威を感じていたのではないのでしょうか。その為に、国家という概念や、道徳といった概念を徹底的に排除したのではないのでしょうか。そして、世代交代が進む中で、徐々に、道徳観は失われていったのではないのでしょうか。

我々は、リサイクルといった事業を通して社会に貢献しております。環境保全といった社会性の高い部分を担っているのです。そういった意味でも「世間様に・・・」という意識をより強く持ちながら事業を進めていきたいと思つています。

来年も宜しくお願い致します

早いもので、今年のリサイクル通信もこれが最後となりました。この一年で、色々な話題をお伝えしてきましたが、いかがだったでしょうか？来年も引き続き市況情報、産廃の法改正などトピックスをお伝えしていきたいと思つています。ところで、このリサイクル通信、現在4人が交代で書かせて頂いております。書風(?)に違いがあるのでお気付きの方もいらっしゃると思つています。これも弊社のスタンスをより理解していただく為には、いい事だと思つております。今後ともご愛読頂きますようお願い致します。来年も皆様にとってより良い年である事を祈念し、今年のリサイクル通信を締め括らせて頂きます。

図書館へ寄り道

最近、「窓ぎわのトットちゃん」という黒柳徹子さんの本を読む機会がありました。一風変わった校風の小学校で作者自身が過ごした日々を綴ったものです。今の日本の教育が失ってしまった教育の本質についていたと思つています。他人を思いやり、自然の大切さを学び、教師を敬い、教師も子供の人格を尊重する。結果の平等でなく、子供たちの特質を伸ばす教育を行っていく。かけっこの早い子もいれば、理科が得意な子がいる、絵が上手な子もいる。そうやって子供たち自身で自己のアイデンティティを確立していく。教育とはこうあって欲しいと思つています。是非、御一読下さい。